

中国農業研究（学論003）

石川滋(1976)「転換点を迎える中国の経済と社会」『世界』第369号（8月号）

研究対象

いつ：1960年代～1976年まで

どこ：中国

だれ：外国人研究者

なに：

目的：1976年における中国の変化を政治学的に分析だけでなく経済学的に分析する。

枠組・アプローチ

- ・近代経済学
- ・現状分析

結論

傾向として生産隊が市場的採算性に走ろうとしている。この傾向を前提にすれば、経営組織は家族経営が望ましい。しかし、政府は人民公社の意志決定単位を生産隊から生産大隊、公社レベルに引き上げることが望んでいる。

農業に密着して1970年代以後急展開してきた農村及び地方工業と中央工業の関係は、自力更生原則と市場的採算原則の相克が敏感に反映する局面である。

ポイント

- ・農産物の需給情勢は農業の機械化、近代化を必要ならしめた。
- ・食料需給を緊張させたのは、備戦、工業化、都市化である。

1、転換点の意味

開発の原動力を何処に求めるのか？

「文革派」政治主義の原理（精神主義）

「党・政府の幹部及び一般大衆の公共のために働く意欲（中国の言葉での「主観的能動性」）」をたえず高揚させること。

「実務派」経済主義の原理（現実主義）

「現状における人間の動機意識を前提して、そこから開発の成果が得られるような人間の行動を導き出すための、計画化及び限定された市場の恒常的制度を工夫すること。」

* 2つの原理は広い領域において補完的であり、特に経済社会の開発段階においてはそれを適切に組み合わせて、運営することによって開発そのものを可能ならしめ、またそれを著しく急速化することができる。

1975年 全国農業会議

華国鋒によるしめくり報告

「第5次計画、ひいては周報告の本世紀末に及ぶ長期目標実現の鍵が、広大な中国農村における農業機械化の実現とその前提としての人民公社の制度・組織問題の解決、及び各県の党委員会の思想活動の革命化にあることを強調している。」

1980年までに「農業、林業、牧畜、副業、漁業の主要作業の機械化水準が70%に達する目標。」

2、転換点をもたらす客観的情勢

農産物需給の情勢

表1 中国食料バランスシートの推計

- ・食糧配給制度が、食糧需要を抑制する作用を果たしている。
- ・主食、副食の構成は都市と農村で相違する。

例、

1956/57年の推計では都市の1人あたり食料消費は農村より2割方少ないが、食用油、豚肉などのそれは2、3倍の大きさである。

* 副食品はその生産のために同じ重量の穀物よりも遙かに多くの耕地面積を専有する。

* 今日の中国農業においてもっとも希少な生産要素である耕地面積の専有規模ではかった資源コストは、植物油で穀物の10倍、豚肉で4.4倍であった。

* 中国が今日なお人口の都市移動を厳しく統制し、また工業化に伴う雇用労働力の増加を慎重に抑えている理由の1つは、それを放任するときそれだけで農産物に対する実質需要が着増する事にあると思われる。

農産物供給増大への圧力

以上の農産物需要情勢から農産物供給増大への圧力は今日なお高い水準で持続している。

1960年代以来 ” 物的ないし精神的資源の産業間配分についての「農業を基礎とする」政策 ” が続けられている。

これまでの農業増産の要因

例示的解説：「学大寨」の模範となった山西省昔陽県大寨大隊

土石土壌の山区傾斜地の伝統的な段々畑改造による水平棚田の造成、その棚田における厚い耕作地層の形成による保湿力の増大、及び植林による山洪水の防止などであり、その結果として主要作物であるトウモロコシの収量が引き上げられたばかりでなく、小麦との二毛作ができるようになった。

一般的な取り組み：農法改善（必要条件：治水灌漑及び土地改良 作付体系の改変）

(イ) 華中の淮河流域や華北平原を構成する海河体系の流域

流域人口7,000万人 耕地面積1,200ha

広域での洪水・冠水防御、土壌アルカリ化防止及び大規模灌漑事業

4世紀以来続いた二年三作の作付体系

一年二毛作

裏作の小麦も高収量化

(ロ) 揚子江流域

灌排水の進展

水稻二裏作及び一年三毛作を普及

ポンプ灌漑の役割大 中国における農業機械化の発端

治水灌漑

* 治水・灌漑や農地造成事業の大部分は、中国の用語での小型工事に属し、元々人民公社ないし生産大隊レベルで農閑期の労働力と地元資材を利用して行われた。

* 大型・中型の工事は、中央・省政府が管理し、ただ不熟練労働力について伝統的な「民工」（労働力の行政機関を通ずる民間への割り当て、政府は食料・小遣い金及び宿舎のみ提供する）方式によって動員した。

* 大型・中型工事についてもその労働集約部分工事を分割して地元の管轄に委ねる方法が採られた。

肥料

* 作付体系の多毛化の方向への改変はそれ自体で肥料増投を必要とする。

* 1965年の全国平均の耕地haあたり肥料成分量の投入量は全成分について135Kg、窒素のみで61Kgであり、その86.5%は人間及び家畜の糞尿を主体とする自給肥料により供給された。

* 自給肥料は、その集積量が増えると共に労働投下も増大されなければならない。

図1 こうりゃんに対する肥料(N)の収量反応曲線

* 希少な化学肥料をもっとも節約的に使う方法

労働の増投と限界生産力の逡減

* 労働の増投がその物理的限界につきあたることによって阻まれるケース。

農季の制約

* 主要な農業基本建設作業が農閑期にのみ実行できることも農季の制約の1つ。

図2 連作晩稲の田植時期と収量の関係 —浙江省の事例、1956—

* 主に無霜期間に制約される

2期作の場合、早稲の収穫調整及び晩稲のための耕起、田植、灌漑が一時期に集中して行われなければならない交替期（約5～15日間）は、年間労働時間のピークを形成する。

このピークを乗り切れるだけの労働供給能力のない経営は直ちに二期作への改変を放棄するのではなく、必要な作業のための労働投入時期をずらせることによって収量の低下を喫しても二期作は十分に利益を生むと考える限りにおいて、二期作への改変を行うものと考えられる。

農業の機械化がなされなければならない理由

農業機械化の役割と技術的性格

労働多投に伴う個々の農作業の限界生産力逡減を抑制する効果。
多毛作化に伴って生じた労働需要のピーク時を乗り切ること。

具体例：湖北省新洲県のケース

第1期 灌漑排水用のポンプ

第2期 ポンプ用動力機を脱穀、農産加工機械に結びつける

第3期 耕作の機械化

水田の二期作面積の比率

1957年	1963年	1974年
38%	67%	94%

* 機械化が深耕を可能にすることによって限界生産力の低下を阻んだ優れた事例は、大寨大隊によって与えられている。

小型のキャタピラトラクター 30cmの深耕

ヘクタールあたり食料生産高

1953年	1963年	1973年
1.875t	5.580t	7.690t

機械化が労働需要を減少させないケース

農業機械化は、個別作業項目についてみる限りにおいて確かに労働節約的であるが、それらの作業項目が新たな補完的作業項目の需要を生み出すときには、農業生産を総体として労働使用的たらしめる。

* 機械化は灌漑排水、脱穀調整その他の農産加工の作業過程でもっとも早く且つ広く展開しているが、収穫、中耕、田植においてこの順序で未解決の技術的問題をかかえているようである。耕起作業は耕耘機やトラクターが機械化のシンボルとされやすいこともあって、その普及度は高いが、トラクターの効率的使用には問題が残されているように思われる。

統計上の注意事項：トラクターが普及していてもそれは必ずしも農業生産に投入されない。

農業機械化の指標

中国の定義

- ・ 作業項目ごとの機械化作業比率
- ・ 機械化による労働節約量ないし比率

表2には河北省西鋪大隊のトラクター・サービス隊による完成作業量の作業別配分

トラクター普及問題が台数よりも先に技術や管理の問題にあることを示唆している。

3、農業機械化のマクロ問題

農業が機械化・近代化され、増産効果を上げていくためのマクロ的条件

(1) 工業セクターの支援

(2) 農業機械を購入するための資金

* 農業セクターの機械化・近代化投資の余力は、それが個人消費の節約によらねばならない限りにおいてきわめて限定されたものであろう。

* 機械化や近代的投入材の増投をすすめて、高い収益をあげている生産大隊が、増産はしたがその純収入は却って減少し、「高産・貧困隊」となった多くの事例が報道されている。

コスト増高の原因

- ・ 化学肥料・殺虫剤の購入
- ・ 農機具の外注修理
- ・ 種子購入
- ・ 電力・用水費

高産貧困隊

食料トンあたりの現金による生産費支出 80元

高産裕福隊

現金支出を極力節約 40元

(3) 農業セクターへの労働供給の増大

* 「高産・貧困隊」の問題は裏返しにしてみると労働の限界生産力が著しく低下し、現在の個人収入配分の単位である労働日あたりの報酬が減少するという問題である。労働日報酬の低下はいうまでもなく機械化に伴う労働集約型農法の貫徹のための労働供給増大を困難にする。

マクロ的解決は可能か

マクロ政策

- ・農工間資源再配分のための価格操作
- ・(財政上の)補助金政策、公共投資

* 現行の政府による農産物買い付け価格を引き上げ、近代的投入財の販売価格を引き下げれば、「高産貧困隊」は容易に高産裕福隊に転化し、また多数の一般生産隊において社会的に望ましいだけの近代的投入財の使用と、集約化農法の貫徹のための労働供給の増加をもたらすだろう。

しかし、工業から農業に対して資金の大幅な流出を招来するこのような資源再配分は、望まれている速度の工業化を遅らせ、ひいては農業機械化・近代化の均衡的な水準をも低下させるだろう。

4、人民公社制度と人間の動機 — 転換点のミクロ的問題 —

問題意識

(1) 生産隊を基礎的所有単位とする現行の人民公社制度が農村家族の意識・動機とどのように適合しているかを考察し、ついで農業機械化、近代化の動きがこの何らかの適合関係にどのような影響を与えているか。

(2) 「全国農業会議」が望ましい方向として決定した基礎単位の生産大隊ないし人民公社への引き上げが、どのような意義を持つか。

人民公社の基礎的な定義 P.35

人民公社	生産大隊	生産隊
約2,300家族	300家族	30家族
「郷」(行政村に相当)		自然村内の小集落

人民公社制度は「生産隊を基礎とする三級所有制」と言われる。

生産隊

- ・自らの意志で生産と経営を営み、その成果を所属隊員の間に分配する。
- ・生産と経営、分配は政府や上級組織の下す計画やルールに従わなければならないが、それらは意志決定に対する制約条件となるだけであって、意志決定そのものを行うのではない。

1958年 人民公社創設（一元的所有制）
農家家族の生産意欲の激しい減退
反省
1961年 三級所有制

例外的なケースを除いて公社所有、生産大隊所有の財産はわずかであり、中国農村で実質的に作動していた組織単位は生産隊。

生産隊の制度組織が農家家族の意識、動機に対して生産促進的な方向で適格的であった。
第1、生産隊がほぼ、中国農村におけるコミュニティの単位の社会的範囲で形成されていた。
第2、政府の農村経済政策は、このようなコミュニティを基礎とする生産隊ごとの結束に障害を与えることを慎重にさせた。

むしろ、その結束を利用し、助長した。
増産運動、小型灌漑への成果は必ずコミュニティの幸福に寄与することが原則とされた。
第3、生産隊の経営
自給自足が主。
生産と蓄積が主として生産隊内の労働

生産隊規模の経営の問題点：労働力の自由出稼ぎ問題
生産隊の近辺で工業化、都市化が進展し、これまで存在しなかった新しい経済的機会が生産隊の周辺に出現することである。

生産隊労働力の近くの都市への出稼ぎ
生産隊が収入増加を目的として組織的に行う

食料生産高 減少
農業生産、農地建設が半ば放棄

「全国農業会議」は農村に出現している資本主義と批判。
政府の方針
農業増産とそのための基本建設の緊要性を唱導
党、政府内も「共産主義的覚悟」が必要
大衆が「社会主義的積極性」を持つためには、大衆と接して政府の方針を伝える幹部が「共産主義的覚悟」（利他心）を持ち、大衆に信頼されなければならない。

石川命題：コミュニティ動機はその範囲外に対しては利己的動機としか発現しない。
石川命題による全国農業会議の評価
・生産隊：家族の生存維持動機とその延長としてのコミュニティ動機にあってそれ以上でない限り、出稼ぎ出勤が選好される。
・同じ性質の問題：食糧増産を重視する政府の方針に反して生産隊が副業に専念する傾向、トラクターを主として運搬に使い賃稼ぎする傾向。

農業機械化の2つの性格

1、農業機械の持つ技術的不可分性（その使用が「規模の経済」性を伴う）

例、小型トラクターや附帯農具は生産大隊の規模でなければ、効率的に使用することができない。大型トラクターでは効率的な使用単位は人民公社。

2、農業機械の購入費用

「組織的な意味での規模の経済」

例、小型トラクターは生産隊では購入できないが生産大隊ならできる。

人民公社の組織は、2つの意味の規模の経済性をかちとるのに適しているようだったが失敗した。

機械化の資金

- ・生産大隊又は公社経営の工業企業の利益金
- ・生産隊からの借金

* 機械化資金を生産隊の貯蓄を集積して行うことが容易でない理由の1つは、生産隊の多くが本来現金による貯蓄余力を持っていないことによるのかもしれない。

三級所有制人民公社制度下で農業機械化があまり上手くいかなかった理由

生産隊が今までにコミュニティ動機（外部に対して利己的動機）を越えて公共的動機を持つにいたっていないことによるものと思われる。それには幹部への信頼性の欠如も働いているだろう。

* 生産隊は機械化投資に拒絶反応。しかし、生産大隊ないし公社の投資した機械は使用料を払って使っている。

人民公社制度改革の方向

農業機械化が広大な中国の農村に与えている真のテストは、コミュニティを基礎とする生産隊の外に対する利己心が公共心に切り替わるのを待つことなく中国政府が人民公社の生産・経営の意志決定単位を生産隊から生産大隊ないし人民公社に引き上げようとしていることの中にあるように思われる。

中国政府の方針

集団所有制	全民所有制
小生産者心理	無産階級の世界観

政府の方針に対する懸念

(1) 農民の意識・動機はコミュニティ動機の連係を持たない新しい形態の利己的動機として定着し、幹部層のそれは今やその掌握下に入った主要生産手段の管理をよりどころとして官僚主義的な利己主義に向かうおそれはないか。

(2) 広大な中国農村の経済と社会を支配する原理が、自力更生原理から市場的採算性原理に変わっていくおそれはないか。